

令和8年度 認知症地域支援推進員の活動		資料4
具体的な活動内容		
目 標		具体的活動
1	認知症への理解を深めるための正しい知識の普及・啓発	・あしやトライあんぐるでの広報活動
		・保健福祉フェアでの広報
		・福祉センターでのパネル展示
		・図書館での普及啓発イベント
2	相談・支援体制の充実	・企業との連携(阪急バス)
		・市民向け講座の開催(神戸大学との連携)
		・医療機関との連携
		・認知症事例検討会の実施
3	地域で支える体制づくり	・四季の会への参画
		・専門職向け研修会の開催
		・あしやの会の開催
		・コグニケア参加者への広報・啓発の実施
4	若年性認知症の人への支援	・リーフレットの周知
		・若年性認知症ネットワーク会議の開催

1

具体的な取り組みと全体スケジュール												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1 啓 発				福祉 フェア での 普及啓発		あしやトライ あんぐる		芦屋病院 ホスピタル フェスタ				
				阪急バス車内における 普及啓発		図書館での 普及啓発	福祉センター パネル展示	市民向け講座 の開催				
2 相 談			事例 検討会①		事例 検討会②			事例 検討会③	事例 検討会④		事例 検討会⑤	
		四季の会 ①		四季の会 ②				四季の会 ③	専門職向け研修 の開催		四季の会 ④	
3 地 域	あしやの会(奇数月第三金曜日)											
			コグニケア での周知 啓発			コグニケア での周知 啓発						
4 若 年 性	若年性認知症啓発リーフレット周知											
			若年性認知症 NW会議(個別)							若年性認知症 NW会議		

2

1 認知症への理解を深めるための正しい知識の普及・啓発

①取り組み内容・概要

- ・保健福祉フェアでの広報
保健福祉フェアでクイズをとおして認知症について理解を促す(7/11)
- ・福祉センターでのパネル展示
(10/6～10/23)
福祉センターエントランスにて認知症に関するパネルを設置
- ・図書館での普及啓発イベント
(9月1日～10月4日)
図書館(本館)にて認知症に関する書籍の展示・貸出・紹介を行うことに合わせて、認知症相談センター等のパネル展示や認知症カフェちらしを設置、市章のライトアップも実施予定
- ・企業との連携
阪急バス車内に高齢者生活支援センターの案内を掲載し、相談窓口の周知を行う
- ・市民向け講座の開催
(神戸大学との連携)
認知症に関する講演会等を行い、普及啓発を行う






②課題・目標

新しい認知症観の理解を深め、当事者がいつまでもいきいきと、安心して暮らせる地域づくりを展開する必要がある。
引き続き、地域の企業、認知症カフェとも連携しながら、新しい認知症観を広く市民に啓発する。

3

2 相談・支援体制の充実

①取り組み内容・概要

- (1)兵庫医科大学病院と加藤心療内科クリニックとの事例検討を継続実施
- (2)在宅医療・介護連携支援センターを通じて医療機関への情報発信の機会を設ける
→ 医療機関に対して、認知症相談センターの役割を周知・普及啓発すると共に、介護保険に限らない社会資源の紹介
- (3)兵庫医科大学病院 認知症疾患医療センターと連携
→ 四季の会(MCI教室)に参加し、地域の社会資源の紹介
- (4)専門職向け研修
→ 若年性認知症の方への支援を通して、普段、関わりの薄い分野の制度やサービスについて、理解を深めることで、職員の対応力向上を目指す。

②課題・目標

【課題】

- ・医師に認知症相談センターを含む資源について知ってもらい、必要な連携やつながりが図られる必要がある。
- ・介護保険サービス以外の社会資源についても、情報が届きにくく、活用が進みにくい状況にある。
- ・支援者が他の支援制度について学び、広い視点で支援する必要がある。

【目標】 医療機関とスムーズな連携を行うことで、対象者の生活が豊かになる。
支援者が世帯や生活を見る視点を学び、必要な支援につなげることができる。

4

3 地域で支える体制づくり

①取り組み内容・概要



- ・認知症相談センターの周知および地域の担い手の発掘

コグニケア教室の参加者に対し、高齢者生活支援センター（認知症相談センター）や認知症に関する社会資源の周知啓発を行う。

- ・チームオレンジの定着（あしやの会・あしやの会@ふらっと）

②課題・目標

- （1）認知症相談センターの周知および地域の担い手の発掘

【課題】 認知症相談センターの認知度が低く、相談が遅れる可能性がある。また、ボランティアを募集していても、周知不足や具体的な活動内容の見えにくさから、実際の参加に繋がりにくい。

【目標】 認知症に関する相談先、認知症カフェやボランティア活動について周知することができる。コグニケアの認知症検査等で心配なことがある方が相談先に繋がることができる。

- （2）チームオレンジの定着（あしやの会・あしやの会@ふらっと）

【課題】 毎回の企画決定は当事者や支援者の負担が大きく、長く続けていく上で心配な点がある。また、「家族の意見が強出すぎる」「ゼロからやりたいことを伝えるのが難しい」など、当事者主体の会にしていくためのハードルが高い。

【目標】 昨年度の実践を土台に、当事者も支援者も無理なく続けていける仕組みをつくる。その上で、各会に合わせて座席の工夫や選択肢の提示など環境を整え、当事者本人の声がしっかり活きる活動を定着することができる。

5

4 若年性認知症の人への支援

①取り組み内容・概要

- （1）若年性認知症啓発リーフレット周知

R7年度に改定したリーフレットを医療機関などに配布し、若年性認知症について周知する

- （2）若年性認知症ネットワーク会議を開催

（システム検討会議）支援システムの構築や、不足する社会資源、インフォーマルサービス等の創出に関する検討・取組を行う。

（個別支援会議）新規で相談のあったケースにおいて随時開催する

②課題・目標

- （1）若年性認知症啓発リーフレット周知

【課題】

若年性認知症に関する相談が少なく、地域の方にリーフレット等を活用した周知が出来ていない。

【目標】

改定したリーフレットを活用し、関係機関・地域住民へ啓発を行う。

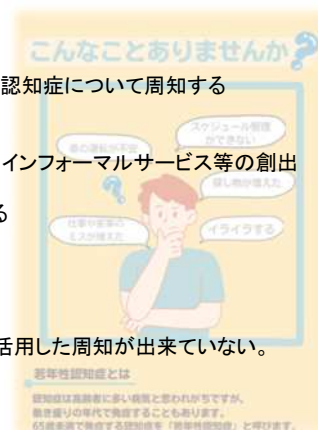
- （2）若年性認知症ネットワーク会議（個別支援会議）開催

【課題・目標】

若年性認知症の方への支援が多方面にわたり、多機関連携において支援が必要である。

本ネットワーク会議を開催することで、どの構成機関が相談を受け付けても、チーム体制で支援が出来る体制をつくる。

また、個別ケースから地域課題も検討することで、今後の必要な取組につなげる。



6